令　和　３　年　度
千早赤阪村立学校
評　価　報　告　書

学校名（　赤阪小学校　）
校長名（　當麻　裕彦　）

１．教育目標

「一人ひとりが輝く元気な学校　ふるさと　赤阪小学校」

「強く」・「正しく」・「朗らかに」

元気な子　考える子　やさしい子　根気よく取り組む子　手伝う子　工夫して学ぶ子

① 「GIGA スクール元年の挑戦　教育の個別最適化　ハイブリッド型への移行
② ともに学び、ともに育つ」支援教育の視点を踏まえた学校づくり
③ 地域学校協働本部活動・特色ある学校づくりの推進

２．経営方針

■GIGA スクール元年の挑戦
教育の個別最適化　ハイブリッド型への移行

〇3観点に基づく学力の育成
授業形態が多様化したとしても変わることのない「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に基づく学力を育む授業づくりに取り組む。つけたい力を明確にして主体的・対話的で深い学びを実現する。

〇一人一台の端末環境の可能性への挑戦
一人一台の端末の有効活用の可能性を研究し、デジタル教科書、AIドリル等ソフトも活用しながら個別最適化された学び・双方向型学習・協働学習の実現に向けて取り組む。

〇自学自習力をつける
端末を活用した自主学習力の育成も図るが、これまで本校が取り組んできたノート指導の充実や紙媒体の活用も並行して取り組み、デジタルとアナログのハイブリッド型指導への移行を進める。

■「ともに学び、ともに育つ」支援教育の視点を踏まえた学校づくり

〇すべての子供が学びやすい赤阪小学校をめざして。
ユニバーサルデザイン【UD】に基づく「授業づくり」と「学校環境整備」
そして「学校体制・組織づくり」

〇「チームあかさか」で迅速かつ的確な情報共有で学校の強みを。
信頼される学校であるための組織的対応の日常化を全教職員で図る。

〇指導観、児童観の共有
少人数である事を生かし、一人ひとりに寄り添い、背景にある保護者の願いにも配慮した「学級経営」「授業づくり」を行う。
教職員全員で全校児童の教育に関わる姿勢を基本にして、一人ひとりの児童の教育的ニーズに応えられる学校体制の構築。

■地域学校協働本部活動・特色ある学校づくりの推進

〇新型コロナウイルス感染症対策に努めながらではあるが、学校と地域が協働して、学校教育における課題に取り組む体制づくりを整え、地域の資源を本校教育に生かす取り組みを進める。

〇郷土である大阪府唯一の村、千早赤阪村に愛着と誇りをもつ子供たちを育むために、歴史学習、自然、名所、旧跡に親しむなど郷土にちなんだ学習を積極的に行う。

〇少人数、小規模のメリットを生かした教育活動を展開し、特色ある学校づくりに努める。

３．本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		Ⅰ　学力の向上と教育力の充実
P	重点目標	**◆GIGA スクール元年の挑戦　教育の個別最適化　ハイブリッド型への移行** １(1)新学習指導要領に対応した学力の３観点に基づくつけたい力を明確にした授業改善、ノート指導の充実 １(1)大阪府のスクールエンパワーメント事業校及び算数の複数教員加配校としての取り組みによる教育力の充実及び自学学自習力の育成 １(3)一人一台の端末環境を利活用した教育の個別最適化 １(4)「ともに学び、ともに育つ」教育を基本に個に応じた教育を充実させ、また、支援教育における「自立」の時間を充実させる
D	具体的な取り組み内容	１(1)(3)授業形態が多様化したとしても変わることのない「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の３観点に基づく学力を育む授業づくりに取り組む。つけたい力を明確にして主体的・対話的で深い学びを実現する。 １(1)(3)端末を活用した自主学習力の育成も図るが、これまで本校が取り組んできた「ピカイチノート」「自主勉強ノート」指導の充実や紙媒体の活用も並行して取り組み、デジタルとアナログのハイブリッド型指導への移行を進める。 ２(3)一人一台の端末の有効活用の可能性を研究し、デジタル教科書、ＡＩドリル等ソフトも活用しながら個別最適化された学び・双方向型学習・協働学習の実現に向けて取り組む。 １(4)時間割に「自立」を位置づけ、その時間を有効に使って自立の力を育む
C	自己評価／成果と課題	１(1)(3)スクールエンパワーメント事業の研究発表を行い、本校の学力向上の取り組みについて村内に発信することができた。また、３観点に基づく学力を育む授業づくりを意識し、また、学力向上のためのテスト作りでは、千早小吹台小学校にも働きかける努力をし、お互いの学校での実態に基づいた問題づくりを行うことができた。 １(1)(3)大阪府放送・視聴覚教育研究大会　南河内大会での研究授業を本校で実施し、本校から府下全域への端末の有効利活用についての研究発表を行うことができた。また、「AI ドリル」「ピカイチノート」「自主勉強ノート」指導の充実や紙媒体の活用も並行して取り組み、デジタルとアナログのハイブリッド型指導が定着できた。 １(4)時間割に「自立」を位置づけ、自立活動を計画的に実施することができた。
A	次年度に向けて	１(１)次年度はスクールエンパワーメント事業協力校の指定が外れ、SE 担当者がいなくなるが、これまで積み上げてきた取り組みやノウハウを維持発展させていくこと。 １(３)GIGA スクール元年の挑戦は、軌道に乗ってきたので、次年度は「GIGA スクール２年目の進化へ」というテーマで取り組みを続けたい。 １(４)定着した「自立」の時間を充実させ、一人ひとりのねらいに応じた力を育成していくこと。

３．本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		Ⅱ　豊かでたくましい人間性の育成
P	重点目標	２(3)すべての子供が学びやすい赤阪小学校をめざして。 ユニバーサルデザイン【ＵＤ】に基づく「授業づくり」と「学校環境整備」一人一台の PC を利用した一人一人に応じた教育の充実（個別最適化） ２(3)「外国語教育」の充実によるコミュニケーション力の向上と異文化理解の取り組みの推進で人権感覚を高める。 ２(6)郷土愛の育成　郷土である大阪府唯一の村に愛着と誇りをもつ子供の育成
D	具体的な取り組み内容	２(3)○全教職員が「ユニバーサルデザイン」の学校づくりという重点目標について日頃から常に意識化し、毎日の教育活動の中で実践する。 ○ICT 環境を最大限活用して一人ひとりのニーズに合った教育内容を行う。 ○ALT の活用によるコミュニケーション力の向上で異文化理解を促進し人権感覚を高める取り組みを行う。 ２(6)○「ふるさと赤阪小学校」というキャッチフレーズを掲示し、自然豊かな村の良さを子供たちに積極的に伝え、郷土愛を育む取り組みを進める。
C	自己評価／成果と課題	２(3)○「みんなが学びやすい赤阪小学校をめざして」という研究冊子を作成し、ユニバーサルデザインを意識した取り組みが進んだことを例示。 （黒板周りの掲示物の精選・視覚的支援ツールの開発・座席配置の配慮・指示の出し方の工夫・板書使用マーク教材の開発・教材教具の工夫・見通しの提示・廊下のセンターライン等） ○研修資料として「支援学級通信」を作成し、教職員間での情報共有や理解が進んだ。 ２(3)ICT 環境の活用で、一人ひとりに応じた視覚支援が進んだ。 ２(3)ALT と異文化理解促進や人権感覚を高める授業構成など綿密な打合せを行うことで、異文化理解や人権教育を進めることができた。 ２(3)「ALT に挑戦」という企画を毎月実施して、授業時間以外でも、児童が自ら英語でのやりとりができる場の設定を行い、外国語教育の推進とともに異文化理解が進んだ。 ２(6)郷土資料館の見学や郷土愛を育む教育活動、田んぼをお借りしての稲作学習、棚田イベントへの俳句づくりでの参加など、村の良さを積極的に伝えた。新型コロナウイルス感染症の影響で、積極的な交流などは中止としたものがあった。
A	次年度に向けて	２(3)「みんなが学びやすい赤阪小学校をめざして」のより一層の取り組み ２(3)ALT 活用の工夫発展 ２(6)郷土愛につながる教材開発、森林 ESD の取り組みを計画している。

３．本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		Ⅲ　安全安心な学校づくりの推進
P	重点目標	３(1)○「いじめ」「登校しぶり」「心の変化」の早期発見　早期対応　未然防止 ３(2)○ユニバーサルデザインに基づく安心してすごせる仲間づくり、環境整備
D	具体的な取り組み内容	３(1)○毎月の「こころとからだと、くらしのアンケート」の実施 ○支援推進委員会を開催し、進め方を確認 ○いじめ不登校対策委員会（ＩＦ会議）の開催 ○人権教育・道徳教育の充実 ○安心して過ごせる学級集団づくり ３(2)○黒板まわりの掲示物の工夫 ○ろうかや階段のセンターライン、サインの整備 ○ユニバーサルデザインの考えも取り入れた安全点検の実施
C	自己評価／成果と課題	３(1)○毎月「こころとからだとくらしのアンケート」を実施し、その内容から必要な確認を行うとともに分掌担当者で集約を行い、早期対応を心がけた。朝の打合せで、細かな情報共有が進んだ。また、毎月の職員会議の中でも時間を確保して、児童に関する情報を伝え合ってきた。 ○いじめや不登校に関する校内会議は、ＳＳＷ（スクールソーシャルワーカー）も入って、月１回開催してきた。ＰＤＣＡサイクルを意識し、現状、対応、短期的・中期的な見通し、各機関との連携、学校側の支援体制などについて話し合った。 ○１学期は組織としての情報共有や対応が不十分な点もあった。 ３(2)○各教室の黒板や黒板周りの掲示物のユニバーサルデザインの観点からの見直しを行うことができた。 ○ろうかや階段にあるセンターラインを守る啓発やポスターの掲示を行った。 ○校内のちょっとした出っ張りやつまづきやすい段のあるところなど、注意深く UD の観点からの安全点検が一層進んだ。また、児童から気がついたことの指摘があったこともあり、児童が気づいたことを生かすことができた。
A	次年度に向けて	３⑴校内組織をより工夫して、課題が発生した時に個人がかかえるのではなく組織として対応ができるような組織改革を行う。 ３(2)教職員のユニバーサルデザインの意識向上とともに、児童の気づきを組織的に生かすことができるようなしくみづくり。

３．本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		Ⅳ　学校及び教職員の資質の向上
P	重点目標	4(3)校務支援システム、ICT の活用、職務の効率化で働き方改革を進める。 4(4)地域学校協働活動の推進 学校教育に協力、参画していただける取り組みの開発で「地域学校協働活動」を前進させる。 4(4)特色ある学校づくりの推進
D	具体的な取り組み内容	4(3)校務支援システムの積極的活用、データの共有保存、ICT 機器の積極的活用、平素の職務で気が付いたことを効率化する工夫。 4(4)○中長期的な視点で地域の方の力を本校教育に生かすことや参画していただけるような体制作りについての計画づくり。 ○「見守り隊」「民生児童委員」「読み聞かせ」等の各ボランティアなど学校に関わる方々と多くつながる。 ○大阪府で唯一の村、千早赤阪村に愛着と誇りをもつ子供たちを育むために、歴史学習、自然、名所、旧跡に親しむなど郷土にちなんだ学習を積極的に行う。 ○小規模な学校、少人数の単学級であることをメリットとして生かす工夫をして、一人ひとりを大切にしたきめ細やかな教育ができていることを本校の大きな特色として、また赤阪小学校らしさなど特色ある学校づくりを進めるためにみんなで知恵を出し合っていく。
C	自己評価／成果と課題	4(3)校務支援システム、ICT 機器の活用が進み働き方改革につながった例 ○通知票・出席簿・指導要録・保健関係帳簿の電子化による事務効率向上 ○一人一台タブレットの利活用によるプリント印刷の削減 ○サーバー利用によるデータの共有 ○グーグルクラスルームを活用した情報共有の充実 ○メール配信システムの開封確認機能を利用した保護者連絡の効率化 ○学校アンケートや家庭での様子の確認に WEB システムを利用での効率化 ○ペーパーレス職員会議による印刷物削減　　等 4(4)地域学校協働活動としての「子ども育みボランティア」の登録者が増加し、家庭科ではミシン指導支援、図画工作科授業では木工作業支援などについて大きく進めることができた。また、読み聞かせボランティア、稲作体験活動、げんきこども園との交流、大阪府立近つ飛鳥博物館からの埴輪づくり出前授業の実施や博物館展示への協力なども進み、特色ある学校づくりを一歩進めることができた。
A	次年度に向けて	4(3)　校務支援システムの改善 ICT 機器のより一層の活用 会議の効率化や時間割の工夫での働き方改革の推進 4(4)　地域学校協働活動のより一層の充実 連携協定を結んでいる大阪教育大学や大阪府立近つ飛鳥博物館との教育活動の実施などを進める。

４．教育自己評価

【教職員による評価】教職員アンケートの集計結果より

	項　　目	肯定的評価	否定的評価
1	この学校の教育課題について、教職員で日常的によく話し合っている。	100%	0%
2	各年度の教育計画の作成に当たって、教職員でよく話しあっている。	100%	0%
3	この学校の教育活動には、他の学校にない特色がある。	88%	13%
4	様々な問題行動の防止のための早期指導に学校全体で心がけている。	94%	6%
5	教育活動全般にわたって評価を行い、次年度の計画に生かしている。	100%	0%
6	いじめ・不登校などの問題がおきた時、組織的に対応できる体制が整っている。	94%	6%
7	新学習指導要領実施、新しい教育課題への対応について積極的に研修を実施している。	88%	13%
8	各教科の指導内容について、基礎・基本を明確にし、教材、教具の工夫を行っている。	100%	0%
9	各教科等の授業において、ICT 機器の特性を生かして活用している。	94%	6%
10	教科横断的で総合的な学習に取り組んでいる。	81%	19%
11	思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている。	88%	13%
12	学校行事について児童にとって魅力あるものとするために、 工夫・改善を行っている。	88%	13%
13	課題別・習熟度別学習やTTによる学習指導等、個に応じた学習形態の工夫・改善を行っている。	94%	6%
14	学習が遅れがちな児童への対策を、全校的課題として取り組んでいる。	87%	13%
15	学習意欲の高い児童に対する学習指導を、個に応じた視点で 工夫して行っている。	81%	19%
16	学校運営に校長のリーダーシップが発揮されている。	100%	0%
17	校長は、教職員一人ひとりが意欲的に学校経営に参画できるようにしている。	100%	0%
18	児童のキャリア教育に学校全体で取り組んでいる。	93%	7%
19	人権問題を正しく理解し、差別や偏見のない社会をめざす主体的な生き方につながる学習となるよう工夫している。	100%	0%
20	障害者理解を深め、ノーマライゼーションの理念に基づく社会を築く資質を養うことができるよう工夫している	94%	6%
21	体罰やハラスメントの防止をはじめ、人権尊重の姿勢にもとづいた生徒指導が行われている。	100%	0%
22	この学校では、各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している。	100%	0%
23	職員会議をはじめ各種会議が、学校運営に生かされている。	100%	0%
24	日々の教育活動における問題意識や悩みについて、気軽に相談しあえるような職場の人間関係ができている。	100%	0%
25	事故、事件、災害等に対して迅速かつ適切な対処ができるよう、役割分担が明確化されている。	88%	13%
26	施設・設備について日常的に点検や管理が行われている。	94%	6%
27	子どもたちの安全教育・安全管理を学校として計画的に行っている。	100%	0%
28	校内研修は、教育実践に役立つような内容となっている。	100%	0%
29	研修・研究に参加した成果を、他の教職員に伝える機会が設けられている。	100%	0%
30	学校内で他の教員の授業を見学する機会がよくある。	81%	19%
31	個人情報保護の観点から、児童の個人情報に関する管理システムが確立している。	94%	6%
32	中学校などとの校種間連携の機会を設け、教育活動全般に生かしている。	94%	6%
33	生活指導において、家庭や関係諸機関との緊密な連携ができている。	88%	13%

【外部アンケート等】

保護者アンケートの集計結果より

	項　　目	肯定的評価	否定的評価
1	子供は、楽しく学校に登校している。	89%	11%
2	学校は、教育目標や教育方針をわかりやすく伝えている。	91%	9%
3	学校は、特色ある教育活動を行っている。	91%	9%
4	学校は保護者・地域の願いに応えている。	85%	15%
5	学校での子供の学習活動・様子について、配布物や学校からの連絡、ホームページ等で知ることができる。	100%	0%
6	学校は学習のつまずきを把握し、一人ひとりの子供に応じた指導や支援をしている。	87%	13%
7	学校は豊かな心を育むための学習や体験活動にとりくんでいる。	98%	2%
8	通知表「のびる子」は、子供の学力や達成度を知るようにできている。	98%	2%
9	学校では環境、国際理解、食育、福祉、プログラミング教育等の様々な教育課題について子供に学ばせている。	94%	6%
10	学校では子供の人権を尊重する教育活動が行われている。	96%	4%
11	学校は、子供に生命を尊重する心や社会のルールを守る態度を育んでいる。	94%	6%
12	学校では防災学習、交通安全、不審者対応などの防災、安全教育について子供に学ばせている。	94%	6%
13	学校では他学年とのたてわり活動(わんぱく班)を行い、友だちを大切にする仲間作りに取り組んでいる。	98%	2%
14	学校は子供のたちの体力向上・運動についての関心を高める取り組みを行っている。	98%	2%
15	運動会、学習発表会、参観、懇談等の行事は参加しやすい。	87%	13%
16	PTAは積極的に活動している。	92%	8%
17	学校は感染防止対策に努め、工夫して教育活動を行っている。	94%	6%

【アンケート結果より】（アンケート回収率は82％でした）

２年連続で、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、「わんぱく班活動」や地域の方の協力を得るような特色のある教育活動、また PTA 活動がしにくい状況が続きました。「学校での子供の学習活動・様子について、配布物や学校からの連絡、ホームページ等で知ることができる。」では肯定的評価が100％でした。各学年の学年だよりや毎日のホームページ更新をしてきたことを評価いただきうれしく思います。他の項目も概ね9割以上の肯定的な評価をいただき、⑦「学校は豊かな心を育むための学習や体験学習に取り組んでいる」⑧「通知票のびる子は、子どもの学力や達成度を知るようにできている」⑬「学校では他学年とのたてわり活動を行い、友達を大切にする仲間づくりに取り組んでいる」などは特に高い評価をいただきました。③「特色ある教育活動を行っている」で昨年の肯定的評価77％であったのが今回は91％の肯定的評価に伸びています。また⑩「子供の人権を尊重する教育活動が行われている。」という項目では、昨年度の80％から、今回は96％の肯定的評価に伸びています。一方で、設問①「子供は楽しく学校に登校している」では昨年度97％の肯定的評価であったのが、今回は89％になり、⑥「学校は学習のつまづきを把握し、一人ひとりの子供に応じた指導や支援をしている」では昨年度の肯定的評価93％から今回は87％に⑮「運動会、学習発表会、参観、懇談等の行事は参加しやすい」では昨年度の肯定的評価93％から今回や87％と下がっています。子供たちには制限のある学校生活が続き、また、保護者の皆様に参加して頂く行事を中止にしたり、人数制限をした影響もあるのかと思います。これからも、一人ひとりの子供の気持ちを丁寧に受け止め、全ての子どもが学びやすく楽しい学校づくりに職員一同努力を続けてまいります。

５．学校関係者評価

【学校評議員による評価より抜粋】

〇教育方針について　基礎基本の学力の定着を忘れてはいけないと思う。何のためにパソコンを使うのかについて子供が理解していないと、ただの機械の操作を学ぶだけになってしまう。少し前までは「情報教育」、今は「GIGA スクール構想・ハイブリッド教育」と言葉は変えているが、時代にあった教育機器を活用することには変わりない。本当に学校教育で必要なものは、基礎基本「読み書き計算」と「豊かな心」「元気な身体」だと思う。
〇ハロウインやクリスマスなど季節感を感じる校長先生の扮装が楽しいです。これからも親しみやすい校長先生でいてほしい。
〇学校訪問させていただき、日頃の学校の様子を含め、丁寧に説明いただき感謝する。現在多くの小学校では人員不足で子供の対応、保護者対応等に四苦八苦している状況がある中で、学校規模にしては恵まれた教職員数だと感じた。そうした状況だからこそ、一層きめ細やかな指導を先生方全体で行っていこうとしている様子がよくわかった。授業においては子供たち一人ひとりの意見・声をタイミング良く拾い上げて対応している姿に感心させられた。教職員全体が子供が「わかったよ、先生！」という声が出る授業構想のために引き続き授業研究に努力されますよう、校長先生のご指導をお願いしたい。
〇ふるさと教育の中に、下赤阪の棚田見学や棚田での田植え体験を入れてはどうか。
〇村の子は、意外と村の史跡を知らないのではないか。教育活動の中に組み込めないか。
〇昨年か今年にかけてコロナ感染症の影響で例年通りの運営ができないなかで正直 PTA の基本路線もわからないまま月日が過ぎていっている。行事や運営についてはもう少し連絡を密に取り合う方がいいのかもしれないと考えている。
〇臨海学校が実施できて良かったと思う。遠足中止は残念だった。移動手段の問題だったと思うが、対策を工夫して実施するという方法はなかったのかと思うところはあった。
〇特別支援教育が充実していると感じた。それぞれの子が抱えている障害に個別にきちんと対応されているということだと思う。個別支援が必要な児童が多いということは、通常学級にもどったときもサポートする教師がいないと担任は大変になると思う。教師の人数が多いことはありがたいことだと思う。
〇外国語教育について、千早赤阪村では従来より幼少期からの英語教育に力を注いできた経緯がある。両小学校において推進役となり、中心的な役割を果たしてこられた先生に代わり、他市町村から転勤の先生もずいぶん増えてきているように思う。そうした中でこれまでの取組のエッセンスは引き継ぎ、それぞれの先生のやり方で新しい村の小学校英語教育を推進してもらいたい。特に中学校との連携を図り、小学校の間に何をどれだけ学習して生きているのかを小中間で共有し、新学習指導要領が示すとおり、有効的な連携を図るべきである。そうした中で、文部科学省は小学校高学年における専科教員による授業の推進を図ろうとしている。働き方改革の一角を担う施策として、英語専科教員も制度的に進められようとしている。村の英語教育では、従来より担任による英語教育を進めてきた。小学校の先生の英語教育への負担を考えれば確かに専科教員も有効だと考えられるが、担任だからこそできる小学校英語活動、英語科指導があると思います。
〇子供たちの様子をみていても充実した学校生活を送っておりますので先生方には感謝しかありません。
〇棚田夢灯りの俳句の応募についても 4.5.6 年生の学級全員に対して取り組んでいただいて、先生方の取り組みに対する共通意識が感じ取れて、まとまっておられるなと感心しました。
〇いろいろな行事に対してその都度対応していただきありがとうございます。難しい選択を求められる時もあったと思いますが、先生方の対応力にすごく感謝の気持ちでいっぱいです。
〇教育環境について
1.2 年生の生活科「どんぐりひろい」で学校周辺にどんぐりが拾える安全な林がないと聞いて、全くその通りだと思いました。ぜひ教育委員会に提言していただきたいです。どんぐりの森をつくりましょう。「田植え」についてもしかりです。村（教育委員会）が窓口となって農家に協力を依頼し、計画してほしいですね。これも学校からのプッシュが大切だと思います。

６．第三者評価

第三者による評価は、今年度実施していない。